

学校教育目標	「自分を見つめ ともに 未来をつくる子」 ○響き合う豊かな学びの中で 自分を見つめ ともに 探究する子(知) ○たくましくしなやかな 心と体をもち 互いを大切にし ともに けんこうな生き方をつくる子(徳)(体) ○人やまちと関わり合いながら まちに誇りをもち ともに 新しい価値をつくり出す子(公)(開)			
	学校概要	創立 119 周年 児童生徒数: 657 人	学校長 羽山 康和 主な関係校: 軽井沢中学校	副校長 鈴木 暁範

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	〇〇中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
<探究する力> <けんこうな生き方をつくる力> <新しい価値をつくり出す力>	軽井沢中学校 宮谷小学校	・他者とながりを築く子ども ・自分で判断し、主体的に行動する子ども ・課題に自ら挑戦し、粘り強く探究する子ども ・児童、生徒の声や意見を反映した学校行事などの実践や成果を共有する。 ・小中相互の授業参観や小中交流を通して学習や児童生徒の理解を深める。 ・PTAや地域を含めた地域行事を通して地域とのつながりを深める。

中期取組目標	○ 子ども一人ひとりの思いを大切にしたい問題解決的な学習過程を重視し、協働的な学びを通して、持続可能な社会の実現に向けて自らの生き方を考える子どもを育てます。 ① 問題解決的な追究過程を大切に、宮谷小で設定する「探究的な本気の姿」を目指して、教育活動の作り方を見直します。 ② 地域、社会に広く材を求めながら生活科、総合的な学習の時間を中心とした探究的な学びを創ります。 ③ 子どものまちへの思いを引き出し、人やまちと関わり合いながら地域・社会を大切にしたい気持ちを育てます。 ④ 児童理解を、日々の観察とデータ活用から進め、学びの充実に生かします。
--------	---

重点取組分野	具体的取組
知 学習指導	①生活・総合を軸に、自己決定を大切にしたい教科等の学びを教科横断的に活用できる学習指導の計画をし、自己決定感を大切にしたい学びにする。②学力・学習状況調査から明らかになった記述による思考表現について、教科等の学習で量的に充実させる。③教師と児童が積極的にICTを活用して学習を進める。
担当	スクールマネジメント部
徳 道徳教育 人権教育	①豊かな心の育成を目指して、道徳科を要として学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育を推進する。 ②道徳的な価値を実現できるように学校と家庭が連携できるように、全学級の道徳科授業公開を年1回実施する。 ③挨拶が雑になったり、相手によって態度を変えたり、単なるマナーではなく、子どもが主体となって相手を思いやれる心の交流を目指すようにする。
担当	カリキュラムマネジメント部
体 健康教育	①児童一人ひとりが健康診断や体力・運動能力調査の分析に基づいて、規則正しい生活を送ろうとする姿勢を育む。 ②運動する楽しさや喜びを知り、日常生活における適切な体育的実践するとともに、生涯を通じて健康で安全な生活を送るための基礎が培われるようにする。 ③子ども主体で計画された運動集会を行い、楽しく体を動かす機会を設定し、日常的に運動に取り組む態度を養う。 ④自他の体を大切にしたい心を一層育てるために、性に関する指導の充実を図る。
担当	体育部
公開 創造に向かう学び	①前年度に引き続き、本校の柱とする「生活科」「総合的な学習の時間」を重点的に校内研究に取り組む。②児童が夢や希望をもち、実現したい思いの実現に向けて「できた!」「役に立った!」と思える授業づくりを目指す。そのために、板書や掲示物に焦点を当て、研究を深めるようにする。
担当	カリキュラムマネジメント部
いじめへの対応	①いじめについてのとらえを職員で確認する場をもち、積極的な認知、チームでの対応、子どもへの寄り添いを徹底できるようにする。②いじめ防止対策委員会は、定期開催に加え臨時にも実施し、いじめの認知や対応方針・役割の確認や経過確認を丁寧に行い、再発防止に努める。③YPで居心地のよい風土づくりをしたり、SOSを求める方法を知ったりすることができるようにする。④人権委員会、子ども会議等、子ども主体の機会を設定し、子ども自身が未然防止を図れるようにする。
担当	リスクマネジメント部
人材育成・ 組織運営(働き方)	①経験のある教職員だけでなく、全員が組織目標達成に向けて力を発揮できる職場を目指す。そのために、会議のあり方を再考する。3部会で検討、学年研で共有、企画会で意見を出し、職員会議で全体周知の流れを作ることで、個人の意見を吸い上げるシステムを作る。 ②個人裁量で仕事ができる時間の捻出を図る。定時終了まで会議を行い、定時以降に個人の時間となる現状を見直す。
担当	スクールマネジメント部
児童生徒指導	①「学校のきまり」について、なぜそのきまりがあるのかを子ども自身が考え、納得して行動する機会を増やす。②「YPアセスメント」等を活用し、子どもたちの強みをより一層伸ばすための支援・指導を実践する。③子どもたち一人ひとりにとってよりよい生活、学習の支援のあり方ICTの効果的な活用も含めてチームで対応して探る。
担当	リスクマネジメント部
特別支援教育	①個別支援学級の児童理解を全職員で行い、全職員で支援していくという意識をもつ。②児童一人ひとりが安心して授業に参加できるように、ICTの効果的な活用や学びの場の環境を整えたり工夫したりする。③特別支援教室を設置し、児童の実態や保護者の意向を確認しながら、担任と特別支援教室担当が連携して支援をしていく。
担当	リスクマネジメント部
地域学校協働活動	①学校説明会や学校運営協議会において、年間を通じた学校運営の取り組みが説明できるようにする。また、地域や保護者の声をアンケートから受け止め、学校運営の改善に生かす。②学校地域コーディネーター、みやがや応援隊等がどのように学校運営に参画しているかを明らかにし、相互に顔の見える関係づくりを継続する。
担当	スクールマネジメント部
	b10
担当	